

○ 日本側所蔵記録

資料番号	J. III-3	資料名	福禅寺対潮楼朝鮮通信使関係資料
<p>李邦彦額字 紙本墨書 [縦×横] 30.0×175.7cm</p>			
<p>三使詩書(趙職、任守幹、李邦彦) 掛幅 [縦×横] 各132.0×54.0cm</p>			

広島県福山市鞆の浦の福禅寺に伝来する朝鮮通信使の詩文である。

朝鮮通信使は、福禅寺の対潮楼から眺めた瀬戸内海の景色を激賞し、ここでの詩作を楽しみとした。

1711年使行の三使の詩3点、同従事官李邦彦が揮毫した「日東第一景勝」額字、1747～48年使行の三使と随員の詩作9首を一巻に仕立てた「韓客詞花」、同随員の洪景海が揮毫した「対潮楼」額字が遺る。

対潮楼は1748年7月、洪景海の父にあたる正使洪啓禧が命名したと伝わる。

これらの詩文は福山藩の学者などに学問的影響を与えた。

資料番号	J. III-4	資料名	本蓮寺朝鮮通信使詩書
<p>申濡、朴安期、趙珩詩書 掛幅 紙本墨書 [縦×横] 95.1×31.5cmほか</p>			

岡山県瀬戸内市牛窓の本蓮寺に伝わる朝鮮通信使の詩9点である。本蓮寺は1643年と1655年の使行時に客館となっており、1643年に宿泊した従事官及び製述官の詩3点、1655年に宿泊した正使及び副使の詩各1点が遺る。

また、岡山藩の御茶屋を客館とした1711年の朝鮮通信使もここを訪れて詩作しており、副使、従事官、製述官、書記の詩4点もある。

これらの詩は、本蓮寺の情景や牛窓の景観を詠んでおり、牛窓と朝鮮通信使の関係を知ることができる。